

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	マレーシア、サラワク州での農山村調査法実践演習プログラム	
学部・研究科名	全学教育機構	
実施期間	2018年2月26日～3月7日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア・サラワク州・バラム河上流域農山村	
参加者数：10名		知の森からの支援者：9名
プログラム概要	本プログラムは、平成29年度後期の共通教育の教養ゼミ、「環境マインドを現場で体験するゼミ(熱帯雨林)」において実施した。前期の講義科目、「熱帯雨林と社会」のアドバンスト・プログラムとして企画した。海外活動先はマレーシア、サラワク州である。サラワクは、熱帯雨林の生物・文化の多様性の宝庫といわれ、かつ森林産物や一次産品を通じて日本と深いかわりをもつ。演習を行ったのは、バラム河上流域のロング・バンガ村とロング・ラマイ村である。現地では、国際協力の分野で活用されている参加型農山村調査法(Participatory Rural Appraisal; PRA)を演習した。PRAとは、外部者と地域住民が一緒になって、住民の生活や生計についての情報を集め、分析することによって、彼らのニーズや課題を探っていくアプローチ、手法のことである。現地では、サラワクの先住民民族であるサバン人とブナン人の方々に協力いただいた。	

実施状況・成果

具体的な活動と成果は次のとおりである。

1. 焼畑農耕を主な生業とするサバン人に対して、PRAを実施、グループ演習(聞きとり、ディスカッション、プレゼンテーション)を行った。
2. 狩猟採集や焼畑農耕を主な生業とするブナン人に対して、PRAを実施、グループ演習(聞きとり、ディスカッション、プレゼンテーション)を行った。狩猟採集の現場を体験したり、日本のODAによる小水力発電設備を見学したりした。
3. 移動には小型飛行機やボートを利用したが、道中アブラヤシ・プランテーション開発の様子を観察し、貿易を通じた自分たちの暮らしとのかかわりや課題について議論した。
4. マレーシア・サラワク大学を訪問し、同大理事や学生らと意見交換や施設見学を行ったほか、軽食を囲んでスタッフや学生と和やかに交流した。
5. 旅行の事前教育として平成29年度後期の土日を中心に計5回集まって、PRAの訓練のほか、現地事情の学習などを行った。うち1回は立命館大学の佐久間香子先生から、もう1回はマレーシア・サラワク大学のジャイル・ラングブ研究員から特別レクチャーをいただいた。
- 6 参加学生は現地でまとめたプレゼンテーション資料に加え、帰国後に演習レポートを作成した。4月中に報告集(冊子)として発行する。

現地では、3つのグループに分かれて PRAの聞きとり、ディスカッション、プレゼンテーションを遂行した。学生たちは、当初は試行錯誤しつつも、次第に自分たちのもつ語学力での確な質問をし、数値や図表を利活用し、丁寧に議論する方法を学んでいた。引率教員は全行程に帯同したが、学生たちは全員、村人と積極的にコミュニケーションをはかっていた。異文化コミュニケーション、社会人基礎力、環境マインドの醸成といった教育的な効果は顕著であると感じた。なお、成果の検証には、4月中に発行する演習レポート(報告集)も参考にする。また、平成30年度前期の教養科目「熱帯雨林と社会」において、主に本学1年生向けに報告会を予定している。当プログラムに参加した学生も引率者も大きな達成感と手応えを感じた。毎年数百名が受講する講義科目「熱帯雨林と社会」に比べれば、その人数はごくわずかにすぎないが、参加した学生も教員も講義では味わえない大きな達成感と手応えを感じた。なお、当ゼミに1年次に参加し、高年次でも単位不要だが自主的に参加させてほしいという学生がいた。当ゼミに参加し、グローバルな諸課題への関心がさらに高まり、その解決に積極果敢に立ち向かう力をつけたいのだという。メンター学生として後輩に貴重な助言をしてくれたことも非常にありがたかった。

受講学生には今後も自ら積極的に海外で出て行動してほしい。私自身、今後も本プログラムを継続してまいる。

学生の声①-経法学部 学生

将来、途上国が持続可能な発展をするために私は、環境分野中心に途上国の法整備に携わる仕事をしたいと考えている。そのためにまず大学生の間に「途上国での環境保全と経済成長の両立は可能なのか」という疑問に対して自分なりの答えを出す必要があると思っている。この研修は自分なりの答えを出すための1つの材料として生かすことができ、本当にこの研修に参加したことで沢山の経験ができ、有意義な時間を過ごせたことに感謝したい。この研修で自分が吸収した様々なことを生かしていきたい。

学生の声②-農学部学生

私はこのゼミに参加して本当によかったと思う。本や授業での知識だけではわからないことを見たり聞いたりすることができたのは貴重な体験だった。また、私自身の英語力のなさを痛感した。質問したいことがあってもうまく伝わらず、まともに聞き取ることもできなかったことがとても悔やまれ、これからの英語の勉強へのモチベーションが上がった。この滞在は充実したもので、いろいろな人に話を聞けば聞くほど知りたいことが増え、とても9日間だけでは足りないと思った。まだマレーシアや村についてわからないことばかりであるため、今回の滞在を足がかりにして、または是非行きたいと思う。

マレーシア・サラワク大学での交流



わな猟の見学(ロング・ラマイ村)

